

柳菟



三重県神道青年会報 第19号

万物皆揆度、揆然為萌芽也

会長 山本行恭



新しい年を迎えて今更に懐く事
が様々な絵巻のように駆け巡る。
「嗟呼予二十七將に一生の半を」
とも「人生五十」とも、古人は言
い遣しているが、愈々その言葉が
身に沁みるように伝わってきた。
所謂、「青年」という域から「壯
年」への入口に立ち始めたのも歳
月人を待たずか。あらゆるサーク
ル活動のすべてに終止符を打ち、
新しい再出発に向う事と成る、大
きな節目の年となった。

け隔てなく子供心を通わせるに絶
好の機会であったし、今後も何ら
かの形で続けていただける事を確
信している。又、迎う御遷宮に対
しても一般神職や氏子青年会を交
じえて各種研修に取り組み、中で
も造営庁の技師の方から生きたお
話を拝聴すると共に施設等も見学
させていただいた。同時に御遷宮
の意義を子供たちに識ってもらう
手段としての「お白石拾い行事」
(県神社庁主催)には猛暑照りつく
炎天下のもと河原での諸行事に興
じた中で、次代へつなぐ一点の火
が灯されたように思う。この火は
必ずや次の第六十二回式年御遷宮
に際して、国土国家安泰の磐石な
いしずえを築き上げる大きな心の
焰と成るに違いない。それ故に、
我々青雲の志を持った青年が、青
少年の育成にその力を惜しまず、
互いに協力し合う気持を注がなけ
ればならないのです。

日本の国生み然りであり、「...
能く我が前を治めば、吾能く共興
に相作り成さむ。若し然らずば國
成り難けむ」との一条が伺われ
る。翻って現世を見るところ、未
だ狭蝮如す皆満ち災害悉に発つて
いる有様は、何らかを切っ掛けと
する要素が無くては軌道修正がは
かれないのではあるまいか。国内
のみならず地球的規模で環境破壊
が起り、そのツケが人の心を余計
に荒ませていくように思える。し
かし、いつ迄もこんな流れが続く
はずがない...と安閑ともしておれ
ない実情を目の当たりに見直す事
が必要なのであって、この心の荒
廢の時に皇室の慶事という兆しが
国内に大きく波及伝播し、遂には
久しく待ち焦がれた御遷宮を迎え
るに至ったのも、矢張り潮流に一
石を投じた大きな節目であろう。

揆心は臆て(近い将来)芽を吹き
出し新しい息吹きをこの大氣中に
発生させる作用を示しているので
あります。竹に準えるならば、一
つ一つの節に伸長する養分を含ん
でいるから破竹の如き勢いで伸び
て行くように、正に今が竹を伸ば
すために揆り事をする時期なのだ
と考えます。

時恰も御遷宮の好機を迎える年
となりました。御遷宮とは、只単
に新しい社殿に御霊が遷るだけ
なく、その行為によって悲喜交
交が一掃され、生命の甦りをただ
大きな役目を持つ重儀なのです。
この重儀をもって陽の兆しが徐々
に息吹くことを願うものです。

日本語には「中今」「常若」と
素晴らしい言葉があります。過去
と未来の狭間にある真只中の大切
さを認識し、且つ何時までも常緑
のみずみずしい若さを抱く姿勢は、
取りも直さず人間の意識感覚を際
限なく表現しています。

「カケコウ、カケコウ」と夜明
けを告げる鶏の一声が杜に甦する
ような将来に期待をよせ、青年会
会員へのはなむけとして二年間の
御礼といたします。

— 多謝 —

各委員会の窓

二年間の活動を顧みて

総務広報委員会



総務広報委員長 中野泰志

平成三年四月から一期二年間に
わたり、総務・広報委員長として
会務を担当させていただきました。
その間、山本会長をはじめ実行力
旺盛な役員・会員諸兄より暖かい
友情溢れるご協力ご支援を賜わり
大過なく責務を全う出来ましたこ
とは、誠に有難く、心から厚く御
礼申し上げます。

また、当委員会が担当する業務
は、総会・役員会等の諸会議の運
営や資料作成、会員名簿や会報「
柳葉」・「神青通信」の発行、広
宣活動、会務・行事の記録等と多
岐多彩にわたっておりましたが、

その円滑なる遂行は、樋口事務局
長をはじめとするスタッフの多大
なご労苦により、はじめて成し得
たものとここに深謝申し上げます。
特に会報「柳葉」は、平成三年
四月に開催された第四十三回神道
青年全国協議会定例総会の席上、
地域性を活かした編集とその継続
発行ならびに平成二年度に発刊し
た当会創立四十周年記念誌の充実
した内容が評価され、優秀会報賞
受賞の栄に浴したことは、この上
ない喜びでありました。

これも偏に、南北に長いという
当県の不利な地理的条件や限られ
た予算状況をものともせず、一致
団結、課せられた事業に邁進し、
四十年もの歴史を築いてこられた
先輩諸氏の御蔭によるものと深く
思いを致す次第です。

さて、神宮式年御遷宮の御齋行が
目前に迫りました。予て当委員会
では、神宮お膝下の神道青年会と

して、嵯峨井委員長率いる御遷宮
特別委員会の諸兄と協力しながら、
遷宮の広報活動をはじめ神社神道
の幅広いPRに努め、特に次世代
を担う若い人々に意識の昂揚の一
助となるべく、微力を注いで参り
ました。

現在、それらについて一応の成
果はあがったと思いますが、この
気運が、今後共斯界の興隆は勿論、
第六十二回の御遷宮奉賛の足掛り
となりますよう切に願うと共に、
その宣揚こそ、常に斯界の先鋒た
る我々神道青年の将来にわたる課
題であると痛感致すばかりです。

渉外福祉委員会



渉外福祉委員長 村尾憲一

「勉強しまっせ 渉外と福祉」
「ほんまかいな そうかいな」
どこかのコマーシャルではあり
ませんが、「勉強しまっせ」と掛
け声だけで過ぎたような二年間で

ございました。

平成二年より三重県にお世話に
なり、神道青年会に参加させて頂
いたばかりの新参者が、いきなり
委員長の大役を仰せつかり「目
点」になったのが昨年のようなあ
ります。

さて、渉外福祉委員会の活動と
いたしましては、会員相互の親睦
を図る事が第一義であり、第二に
神道人として地域社会への貢献を
目標にしていかなければなりません。

渉外活動は、従来の形をなすべ
く変えずに行なうてまいりました
が、会員の参加状況を考え、二年
目の今年、家族会の枠を拡大して
親睦会としてスキーツアーを行な
いました。計画の不備・不測の事
態などあり、万全ではありませ
んでしたが、今後会員の動静をかん
がみて、何かのきっかけになれば
と思えます。

福祉活動に関しては、一年目に
雲仙普賢岳の被災地に対する義援
金を、会員の協力によりまして長
崎県神社庁を通じて送ることがで
きました。又、本年は、お宮の子
供会に福祉施設の子供達に参加し
ていただくことができました。こ
れらが、福祉活動といえるかは賛

否ありましようが、ひとつまちは
 えば親切の押し売りになってしま
 う事をこれからの課題として、し
 ばらくは模索の状態が続くやもし
 れません。次年度は、日本国・神
 社界共にご慶事が続き、会員結集
 の年となりましょう。皆様のご活
 躍をお祈り致します。
 二年間有り難うございました。

教化研修委員会



教化研修委員長
金山修

教化研修委員会の活動は、一つ
 には禊・祭式研修等の会員相互の
 研鑽であり、二つには大麻頒布・
 お宮の子供会等の地域社会への教
 化宣布であり、又その活動を通し
 ての自己研鑽であります。
 この二年間、委員会担当増田副
 会長・池田副委員長を始め委員の
 情熱により、又各行事、多数の会
 員参加により着実に実施すること
 ができました。

大麻頒布促進活動は、桑名ネオ
 ポリスに於て地元の金井神社種村
 宮司の方針を基に、平成二年より
 三年間実施しました。最後の年と
 なった本年度は全戸を回り、最終
 的に一二八体もの大麻をお受け頂
 くことができました。このこと自
 体大変ありがたいことでしたが、
 加えて今後とも種村宮司により頒
 布促進が続けられる旨を聞き、喜
 びをより大きくしました。

又、神宮の御遷宮を間近に控え
 御遷宮の意義を今回ばかりでなく
 次回にも繋ぐ事ができればと幼児
 若夫婦を対象にイセコッコのぬり
 絵も全戸に配布しました。

お宮の子供会は十七回目を迎え
 志摩の宇賀多神社(西尾宮司)に
 て開催しました。今回は渉外福祉
 委員会と合同で実施、施設聖の家
 の小学生を招待しました。当初不
 安も諸々ありましたが、神道行事
 にも抵抗なく参加し、又一般参加
 者とも徐々に話すようになりまし
 た。子供達の笑顔は我々に心温ま
 る思いを与えてくれました。
 本年は、神宮式年御遷宮の大変
 ありがたい年であります。重ねて
 皇太子殿下の御成婚の大変おめで
 たい年でもあります。この新たな

御遷宮特別委員会



御遷宮特別委員長
嵯峨井 和風

る生気喜びを頂戴し、自己の維新
 に励み、地域社会への新しき教化
 のあり方を見つめて参りたいと思
 います。

神道青年会に、御遷宮特別委員
 会が設置されまして二年、初代の
 委員長として、また、神青協の遷
 宮の「こころ」を守り伝える委員
 会の各県より一名選出の初代の遷
 宮啓蒙促進委員としての大役を、
 役員はじめ会員の皆様のご理解ご
 協力を賜りまして、無事に努めさ
 せて頂きました。心より感謝し御
 礼申し上げます。尚、啓蒙推進委
 員の委員の任期は三年ですので、
 もう一年よろしく御指導の程お願
 いを申し上げます。
 本年秋季、いよいよ第六十一回式
 年御遷宮が斎行されるわけであり

ますが、当委員会は音羽ゆりかご
 会出演による遷宮コンサートをは
 じめ各研修・啓蒙活動を神社庁御
 遷宮奉賛会県本部のご援助をいた
 だきながら事業を行なって参りま
 した。
 子曰く、「学びて時に之を習う
 亦た説ばしからずや。」
 論語の最初の出だしです。一度
 学べば、それをわかったような気
 がするが、実際には、良くわかっ
 ていない、ところが学んだこと折
 にふれて復習・練習してみると真
 の意味がわかって体得できる。そ
 のよろこびこそ、学ぶことの原点
 であり、まことのよろこびなのだ
 といっています。

学びの原点、この原点にかえる
 ことこそ、我々、青年神職にとっ
 てもっとも必要なことであり。常
 に実践せねばならないことではな
 いでしょうか。
 私達の使命は、千三百年の永き
 にわたり遷宮ごとに原点にかえつ
 て「こころ」を伝統を文化を今日
 に伝えられたそのバトンを、次の
 遷宮にむけて啓蒙活動を進めてい
 くことにあります。
 頑張りますよう。

平成四年度

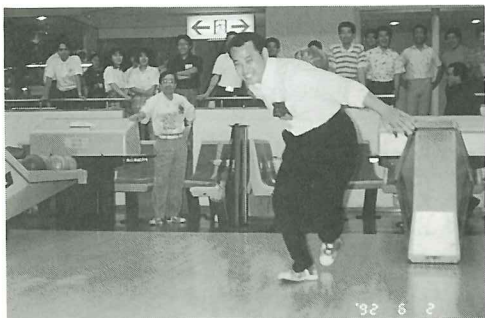
事業報告

新入会員歓迎

ボウリング大会

今年度、神道青年会に入会した
 新会員を歓迎するボウリング大会
 が昨年六月二日、新会員十名を含
 む四十四名の参加により津グラン
 ドボウルで開催された。

ゲームは山本会長の始球式の後
 熱戦が繰り広げられ、団体の部は



山本会長 緊張?の始球式
 於・津グランドボウル

僅差で南部地区が優勝。個人の部
 は、男子が榊林重成会員(多度神
 社)、女子は服部昇子さん(多度
 神社)が夫々優勝を飾り、新人賞

神宮の伊勢の地で 合同研修会



講演を拝聴する会員等

平成四年八月四日・五日の両日
 に亘り、「神宮神道青年会・三重
 県神道青年会合同研修会」が、開
 催され、神宮神青十六名、三重神
 青十四名の計三十名が参加した。
 風日祈祭が執り行われた四日の
 午後四時、会員は白衣白袴に身を

〈カムバック賞?〉は向井敏通会
 員(頭之宮四方神社)に輝いた。
 大会終了後、神社庁にて表彰式
 が行われ、各部門三位までの会員
 が表彰を受けた。
 続いて、新会員の自己紹介の後
 に懇親会が和やかに行われて、新
 会員は神道青年会での第一歩を踏
 み出した。
 (原記)

整え、神宮参集殿に集合した。

先ずは、神宮造営部次長・小川
 弘氏をお迎えして、「御造営の進
 捗状況について」と題しての講演
 を拝聴した。日頃、目にすること
 の出来ない現場の状況を、細かく
 丁寧にご説明頂き、また苦心談に
 は一同深い感銘を受け、熱心な質
 疑が交わされた。

この後、一同は列次を整え神苑
 を参進して皇大神宮を参拝、続け
 て、会場を神宮会館に移して和や
 かに懇親の場をもった。宴では、
 両会長挨拶の後、相互の神青会の
 活動や各々の近況報告し合った。

翌朝、神宮大麻の用材を伐り始
 めるお祭の祭場である丸山祭場に
 登り、神宮遥拝の後、散会となっ
 た。
 (松井 記)

会務日誌

- ◎平成四年
- 四月七〜八日
神青協中央研修会
会長以下六名出席
於・札幌市
- 十日
三重県神社総代会定例総会
会員二十名助勢奉仕
於・神宮会館
- 十八日 第一回役員会
平成三年度定例総会
会員二十七名出席
於・三重県神社庁
- 二十二日
神青協第四十四回定例総会
会長以下四名出席
於・神社本庁
- 五月六日 第二回役員会
- 六月二日 第三回役員会
新入会員歓迎会
会員他四十四名参加
於・津グランドボウル
- 十七日
東海五県神青連絡協議会
会長以下六名出席
於・静岡県神社会館
- 七月二〜三日

東海五県神道青年連絡協議会 及び教化研修会

9月7・8日

恒例の東海五県連絡協議会及び教化研修会が、昨年九月七・八日、当番・静岡県は浜名湖畔、館山寺温泉・浜松市にて開催された。当県からは会長はじめ眺高き二十一名の強者が、陸路・海路二手に分かれ東進。その状はさながら相模国に向かう日本武尊の如し。井伊家発祥地・井伊谷宮に集合の頃には、井伊家赤備えの武者に変身する者もあったが、ともあれ参拝の後宿所



悲願の初優勝記念写真

於・浜松市

に移動し、高木桂蔵氏の講話「見てきた東南アジア」を拝聴した。この夜も県勢は健闘を見せ、東南アジア見聞や裏町人生を垣間見たりした。翌日のボウリング親睦会では、天佑神助もあって初の団体優勝を飾ったほか、一部浜松市内観光のツアーも楽しみ、堂々凱旋した。

(池田 記)

残暑の中、夏休み体験隊

お白石拾い

神宮式年御遷宮の「お白石持ち行事」が、愈々本年八月に行われるが、そのお白石の確保の一助になればと、神社庁教化委員会・青少年委員会が企画のもと、昨年八月二十五日、『夏休み体験隊』として「お白石拾い」のご奉仕を行った。

当日は、一般参加者を含む大人六十名、子供三十八名が参加。神宮を参拝の後、バスにて宮川河川敷に移動、残暑厳しい中ではあったが、予想以上に多くのお白石が見つけることができ、参加者全員が一日楽しく、有意義にご奉仕することが出来た。

(奥出 記)

暑さも忘れ!!

お宮の子供会



藁細工に熱中する子供たち

於・宇賀多神社

第十七回を迎えた恒例のお宮の子供会は、去る七月二十九日から三十一日の三日間に亘り、志摩郡阿児町の宇賀多神社にて行われた。今回は福祉事業の一環として、一般参加の他に社会福祉法人「聖の家」の子供等を招待しての開催となった。予定された記念植樹や遷宮ビデオ鑑賞、また風光明媚な英虞湾観光やゲーム、アスレチック等の行事も無事消化、殊に福祉活動では、今後の神青活動に大きな目標を得ると共に、より一層福祉事業を積極的に推進することを誓い合った。

(増田 記)

木枯らしに吹かれて

神宮大麻の頒布

神宮大麻頒布促進運動の一環として、昨年十二月四日、員弁郡東員町の桑名ネオポリスで大麻頒布を行い、約百二十戸に頒布した。

当日は、好天の中、会員二十五名が参集。十班に分かれ、前年度の実績表・地図を片手に活動を開始。今年で三年次ということ、事前にチラシ・御遷宮塗り絵大会の用紙を配るなどPR活動を行ったため、頒布を待ち受けていた家庭も多かった。また、「神棚がないから」との断りには、簡易神棚を手に「まず祀る心から」と真剣に説明して廻ったが、留守宅や断り文句への対応が、今後の課題となるであろう。

(樋口 記)



真剣に説明する会員ら

会員親睦会開催



スキーウェアもさっそうと

バブル崩壊後、貸切バスでのスキーが減少している中、当会はずが神様のお護りか、二月十二日・十三日、会員相互の親睦並びに家庭サービスを兼ね岐阜県・鷺ヶ岳へのスキー旅行を開催した。

伊勢を午後十時に出発し、目的

の鷺ヶ岳スキー場へ着いたのは、大渋滞の結果、午前七時を過ぎていた。少々睡眠不足だったが、憧れの白銀の世界を前に、色とりどりのスキー装束に威儀を正し、青く澄み渡る空と白く輝くスキー場の素晴らしいコントラストの中へと溶け込んでいった。

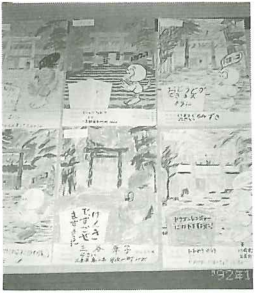
神青としては初めての企画で、事前調査不足や親睦行事が皆無であった等、色々反省材料を残したが、特にスキーが初めての人(子供)には素晴らしい思い出が残ったのも確かであり、出来ることであれば今後も継続していきたいものである。

(上嶋記)

御遷宮イメージキャラクター「イセコッコ」と皇大神宮をデザインした塗り絵を募集したところ、三重県神社保育団体連合会、神宮神道青年会等のご協力のもと、千五十作品が寄せられた。

創造力溢れる作品が多いのも興味深い。お願い事を記入する欄には、素朴な祈りが込められた作品、また一方では親へのお願い事を書いてある作品もあり現代っ子らしさも伺われた。

(岡野 記)



主な優秀作品

直く正しく成長し、何時か御遷宮を支える力となる

北部ブロック研修会

会員二十三名出席

於・多度神社

十日 第四回役員会

二十九〜三十一日

第十七回お宮の子供会

於・宇賀多神社

八月四日 第五回役員会

四〜五日

神宮神青との合同研修会

会員十四名参加

九日 三重県氏子青年会

創立三十周年記念式典

会長以下五名出席

二十五日

夏休み体験隊・お白石拾い

会員十五名奉仕

於・神宮、宮川河川敷

二十九日 第六回役員会

九月七〜八日

東海五県神青教化研修会

会長以下二十一名出席

於・浜松市

二十九日 第七回役員会

十月十日 「神青通信」発行

十五日

初穂曳・お白石拾い

会員五名参加

於・伊勢市

二十六日

三重県神社関係者大会

於・神宮会館

十一月四日 第八回役員会

二十六日

東海五県神青連絡協議会

役員三名出席

於・静岡県神社会館

十二月四日

大麻頒布促進運動

会員二十七名奉仕

於・桑名ネオポリス

◎平成五年

一月二十日 第九回役員会

二月九日 第十回役員会

十二〜十三日

会員親睦会(スキー)

会員三十七名参加

於・岐阜県鷺ヶ岳

二十五日

東海五県神青連絡協議会

会長以下五名出席

於・浜松グランドホテル

三月四〜五日

神青協中央研修会

会長以下十七名出席

十九日 第十一回役員会

二十三〜二十四日

御遷宮・禊・氏青合同研修会

於・神宮会館他

第六十一回 神宮式年御遷宮

— 今秋迎えるにあたって —

今回で六十一回を数える神宮の式年遷宮は、中世混乱期の中絶があったとはいえ遠く持統天皇朝より、一千三百年間に渡って続けられてきた日本最大のお祭りです。

昭和六十年五月には、式年御遷宮最初の祭りである「山口祭」が行われ、昨年三月には正宮の御柱を立てまつるお祭り「立柱祭」御棟木をあげまつるお祭り「上棟祭」が滞りなく斎行されました。そして、いよいよ今秋には、正宮から新宮に御神体を遷しまつるお祭り「遷御」の儀が行われます。そこで今回の榊葉では、今後行われる諸祭行事を中心に、御遷宮特集を組んでみました。説明不足な点は多々あると思いますが、限られた紙面でもございます。どうぞご了承くださいいただきますようお願い申し上げます。

お白石持行事

お白石とは、宮川流域から採取した純白の石英岩で、神宮の御敷地に敷かれている白い石のことです。

「お白石持行事」とは、この白石を遷御の儀に先立って、神領民（伊勢市・二見町・御菌村の旧神領地在住者）たちが新宮に自らの手で奉献する行事で、中世以降神領の伝統行事としての遷宮の年に合わせてきました。江戸時代にはお白石持という言葉も定着し、お

木曳行事と同じく賑やかな華やかなものになり、前回の昭和四十八年には、国の文化財に選定されています。

文献に内院の白石が出てくるのは、室町時代からのようですが、御鎮座当初からお白石は敷かれていたのではと思わせるほど正宮には白石がよく似合います。ただ御造営工事に取りかかる際、白石はすべて取り除かれることや、何度かあった御敷地の嵩上げ工事のため、正確なところは判りません。

るが、前回内宮は十月一日、外宮は十月四日に行われています。

御装束神宝読合

新調された御装束神宝を新宮におさめるにあたり照合する式。内宮は十月一日、外宮は十月四日にそれぞれ四丈殿にて行われる予定です。

川原大祓

御装束神宝をはじめ遷御に奉仕する、祭主以下を川原の祓所で禊い清める式で、遷御の前日に行われる。

御飾

遷御の当日、あらたに調進された御装束で新殿を装飾し、遷御のご準備をする式。

遷御

ご神体を新宮に遷しまつるお祭り。日時は御治定によるが、前回内宮は十月二日、外宮は十月五日のそれぞれ午後八時に遷御が行われました。当夜は、勅使がご参向になり、祭主、大宮司、少宮司以下神宮司庁の神職、及び神宮式年造営庁の職員、一般神社からの宮掌補、文化人などの臨時出仕が奉仕し、浄間のなかをおごそかに斎行されました。祭儀は午後六時から始まり、午後十時過ぎに終わ

御幣

遷御の翌日御治定により新宮の大御前に勅使が幣帛を奉奠される。内宮は十月十三日に、ご正宮に準じて斎行されました。

大御饌

遷御の翌日御治定により新宮の四丈殿にて勅使及び祭主以下参列のもと、宮庁楽庁楽師十二員により御神楽と秘曲が奉奏される。

古物渡

遷御の翌日御治定により、新宮の四丈殿にて勅使及び祭主以下参列のもと、宮庁楽庁楽師十二員により御神楽と秘曲が奉奏される。

それでは、御敷地になぜ白石が敷かれるようになったのでしょうか。一説に『古事記』の天岩屋の段に「八百万神、天安之河原に神集い集いて」とある天安之河原が白石を敷きつめた河原であったことに由来するといえられています。その他、雑草が生い茂るのを防ぐ、地形の高低差を無くす、より清浄な空間の確立、などが考えられます。又、神宮は座上祭祀ゆえ、敷石が有ると正座に非常に有り難いという声も聞かれます。しかし何よりも、神領民の崇敬心な中には白石の存在はありません。

「お白石持行事」の準備は二・三年前から始められ、各町村ごとにお白石持奉献団を組織して、宮川の川原で径7・5センチ程度の白石を拾い集めて町内の奉安所に白石樽に納めて蓄えられます。そして各町では、木遣歌（木や石あるいは山車などを大勢で運ぶ時、音頭をとって意気をあげるために歌われるもの）の練習、奉曳車や引き綱の準備に着手します。

こうして、二見浦での浜参宮などの諸行事を終え、お白石持行事当日を迎えると、神領民たちは、各町揃いの法被姿で奉曳車をひき

前回は、平成五年七月三十一日から八月八日までの毎日午前八時より午後五時まで。

外宮は、平成五年八月二日から八月二十九日までの毎月午前八時より午後五時まで。

一日神領民については、内宮が平成五年八月一日から三日、七日

今回の日程は次のとおりです。

内宮は、平成五年七月三十一日から八月八日までの毎日午前八時より午後五時まで。

外宮は、平成五年八月二日から八月二十九日までの毎月午前八時より午後五時まで。

一日神領民については、内宮が平成五年八月一日から三日、七日

から十月十四日まで、毎日午前八時半より、それぞれの神楽殿において執行されます。

内宮旧御殿は、平成五年十月八日から平成六年三月三十一日まで、遷宮奉賛会員及び各県神社庁より申請とあった方に限り、拝観していただけます。

遷宮奉祝行事の奉納は、平成五年十月八日から十一月三日まで、内宮神苑特設舞台、参集殿奉納舞台、外宮神苑特設舞台でそれぞれ行われます。

神宮舞楽の公開が、平成五年十月八日から十一月三日までの土・日曜・祝祭日の午前十一時より、内宮神苑特設舞台にて行われます。なお雨天は中止になっています。

御装束・神宝展が、平成五年十月一日より十一月三日まで、神宮徴古館にて開催されます。

遷宮奉賛美術品特別展が、平成五年十月一日から十一月三日まで神宮式年遷宮記念美術館にて開催されます。

遷宮写真展が、平成五年十月八日から十一月三日まで、参集殿にて開催されます。

から十日・十七日から十九日まで。外宮が八月二日から二三日・二六日から三十日までです。

御戸祭

ご正殿のお扉を造りまつるお祭り。内宮は九月十三日、外宮は九月十五日に行われる予定です。

御船代奉納式

ご神体をお鎮めする御船代を刻みまつり、ご正殿に奉納する式。内宮は九月十七日、外宮は九月十九日に行われる予定です。

洗清

竣工した新宮のすべてを洗い清める式。内宮は九月二六日に行われる予定です。

心御柱奉建

ご正殿中央の床下に心御柱を奉建する神秘的な行事。内宮は九月二五日、外宮は九月二七日のそれぞれ夜に奉仕される予定です。

杵築祭

新宮の御柱の根元を固めるお祭り。日時は御治定によるが、前回内宮は九月二八日、外宮は九月二十九日に行われています。

後鎮祭

新宮の竣工をよろこび、平安に守護あらんことを大宮地に坐す神に祈るお祭り。日時は御治定によ

岡山県では、プロジェクトチームによって、日本における「連邦制」について研究し、その成果を公表した。

「連邦制」などでは、政治・行政の問題で社人には……と思われるむきもあるかも知れないが、国家の体制を根本から変えるものであり、特に皇室に日頃より関心を持つ社人には、天皇制のあり方を大きく変える可能性も含むこの問題には無関

心でいられないと思われるので、会員各位に考えていただきたく、資料を提供したい。

まず、この問題の起因をまとめてみるに、上京すれば誰しも感じることであるが、東京一極集中のすさまじさである。数字からいえば、全国土の3%強の関東四都県(東京・千葉・埼玉・神奈川)に人口は26%、鉄道旅客59%が東京圏を発着地としている事、新聞全国紙の発行部数のうち東京本社社の発行分は53%、大企業の本社の60%が東京圏にあり東京集中は数字の面からも証明される。

政治・経済は東京に行かなければ根本的な解決ができないという反面、東京での生活環境の極端な悪化が上げられる。以上が第一点。

国・県・市町村のそれぞれが処理している事務のうち、県・市町村のもつ固有の事務の占める割合は、県は二割、市町村では六割、あとは国から委任されている事務すなわち地方公共団体では、国から委任されている事務が仕事の多

くを占め、自らのもつ仕事に時間を削ぐことができにくい状態にあるという点が第二点。

しかし、租税収入の支出配分は国は六割、地方四割で、先に示した仕事量とは反比例の状態になっている点が第三点。国の指示を受けてながら地方が事業を進めるといふ図式となり、国による財政統制が行われているともいえる。

これらの問題は、いずれも閉鎖的な状況にあり、根本的な解決策のひとつとして「連邦制」が提言

されたのである。さてその「連邦制」の内容は、県を廃し、北海道・東北・関東・中部・近畿・中国

・九州に分け州とし、その州は立法・司法・行政の機関を備えた分支部とする。その州では内閣を構成し、州議会でもって、州の施策、立法・予算を決定する。

連邦の権限は、外交・国防・金融など統一国家として必要最少限度の分野とする。とある。

しかし、我々の最も関心のある皇室についてはなんらふれられていない。徒らにイデオロギー的な論争に

— 会員投稿 —
「注目される連邦制」

耳常神社 権祐宜 秦 昌弘

神道青年全国協議会
中央研修会
伊勢で開催

平成五年度の神青協中央研修会は、東海地区主管により来年三月に、伊勢で開催される運びとなりました。神宮式年御遷宮齋行の後という事もあり全国の青年神職から注目されると共に、原点に立ち返る有意義な研修会とすべく、三重県神道青年会の総力を結集しあたらなければなりません。各会員の一層のご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

表紙写真説明

「振舞」

振舞とは、舞楽を開始する時必ず奏する舞で、悪魔調伏の意味をもった、一種の祝寿舞または祈禱舞いである。

(写真提供 神宮司庁)

「榊 葉」

第19号

平成5年3月31日 発行
山本行 恭
編集 総務広報委 会
発行所 津市鳥居町210-2
三重県神社庁内
三重県神道青年会